

活動報告②

「海外の CO₂ 分離回収技術の最新動向」

次世代型膜モジュール技術研究組合
主任研究員 甲斐 照彦

海外においても二酸化炭素回収・貯留 (CO₂ capture and storage, CCS) のための CO₂ 分離回収技術に関して、多くの研究開発が実施されている。昨年は、8月に米国ピッツバーグにて 2018 NETL CO₂ Capture Technology Project Review Meeting¹⁾が開催され、また、10月にオーストラリアにて 14th International Conference on Greenhouse Gas Control Technologies (GHGT-14)²⁾が開催され、膜分離についても報告が行われた。

米国では、米国エネルギー省 (U.S. Department of Energy, DOE) が、国立エネルギー技術研究所 (National Energy Technology Laboratory, NETL) や、大学、研究所、民間企業による CO₂ 分離回収技術のための研究開発を推進している。その成果は毎年 NETL CO₂ Capture Technology Project Review Meeting にて報告されている。今年は8月に開催され、50を超えるプロジェクト (分離膜、吸収液、固体吸収材等) について、実施者から報告が行われた¹⁾。

また、昨年7月に、米国エネルギー省 (DOE) が燃焼前 CO₂ 回収 (Pre-combustion) のプロジェクトに 640 万ドル出資することが発表された³⁾。

本講演では、2018 NETL CO₂ Capture Technology Project Review Meeting、および Pre-combustion に関する新規採択プロジェクトの内容に関して紹介する。

参考

- 1) <https://www.netl.doe.gov/events/conference-proceedings/2018capture>
- 2) <http://www.ghgt.info/past-conferences/ghgt-14>
- 3) <https://www.energy.gov/fe/articles/energy-department-invests-64m-pre-combustion-carbon-capture-projects>